



学校だより



8月号

令和6年(2024年)

8月27日(火)

横浜市立洋光台第二小学校

「成長の夏から実りの秋へ」

のむら ひかる
学校長 野村 光

37日間の夏休みも終わり、学校に元気な子どもたちの声が戻ってきました。子どもたちのいない夏休みの学校は、セミの鳴き声だけが響き渡り、どこか寂しく物足りなさを感じる場所でした。

今日、久しぶりに全校朝会で対面した子どもたちは、夏休み前よりも一回り大きく、頼もしく成長したように感じました。それぞれの教室では担任と一緒に夏休みの出来事を振り返ったり、宿題の作品を友だちと見合ったりする子どもたちの姿が見られました。5年生は、中庭のビオトープに自分たちが放流したメダカの稚魚が、休みの間に大きく成魚に姿を変えたのを見つけ、歓声を上げていました。

今年の夏も、昨年以上に暑い酷暑の夏となりました。8月9日には神奈川県でも震度5弱を記録する地震が発生したり、地域によっては豪雨に見舞われたり、自然災害の発生とその備えを危惧する夏でもありました。

そして、7月27日からはフランス パリを舞台に夏季オリンピック・パラリンピックが開催され、日本選手が多くのメダルを獲得しました。海外のオリンピックで45個のメダル獲得は過去最高記録となるそうです。オリンピックでは多くのドラマが生まれました。そして一人ひとりの選手が見せる直向きな姿に心動く場面が多くありました。体操男子団体の決勝では、日本選手一つ一つのミスが重なり、対戦相手の国に3点以上点差を広げられところで、観客の誰もが日本の金メダルをあきらめていたのではないのでしょうか。しかし、ここから慎重に技を成功させて、見事に逆転をし、金メダルを獲得したわけです。前回東京オリンピックでは、わずか0.103の差で団体金メダルを逃した選手たちは、その悔しさを忘れずに3年間猛特訓を続けてきたのだと思います。試合後のインタビューでは、エースの橋本大輝選手が「みんなに助けられた金メダルで、この4人がいなかったら、この演技はできなかった。やはり諦めなくてよかった。」と話していました。あきらめずに、これまで続けてきた練習と仲間を信じて勝ち取った金メダルはとても重かったと思います。

よく耳を澄ますと、子どもたちの歓声やセミの声に加えて、「チッチッチチ…」というカネタタキの鳴き声が聞こえることに気づきました。秋の訪れを告げる虫の音です。実りの秋もそこまで来ています。学校では10月のYSF(運動会)に向けての練習が始まります。熱中症の対策を取りながら進めていきたいと思っています。保護者の方にはご協力をいただくことも多くありますが、引き続きよろしくお願い致します。

<もしも悩みを抱えていたら…>

学校の先生は誰でも相談に乗りますが、学校以外の相談窓口もあります。

【24時間子どもSOSダイヤル】0120-078-310